

「運行管理者試験〈旅客〉合格教本」正誤表

初版 第 1 刷

(2018 年 8 月 6 日更新)

技術評論社 書籍編集部

お詫びと訂正

本書の以下の部分に誤りがありました。ここに訂正するとともに、ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

初版第 1 刷をお買い上げの方へ

P.42 「整理 運行上やむを得ない場合」 表中「想定される場合」の③

誤	車庫とその車庫を所管する営業所が離れている場合
正	早朝、深夜、勤務時間外等、点呼執行者が営業所に不在な場合

P.310 問 3 (2) 上から 1 行目の文章に赤字部分を追記

現状	そして、運転者は往路の夜間ワンマン運行一運行の直前に 11 時間以上の休息期間（12 時間）を確保しているため、一運行の実車距離は 500km を超えてはならないところ、往路における実車距離の設定は 410km であるため、配置基準に違反していないことになります。
追記後	そして、運転者は往路の夜間ワンマン運行一運行の直前に 11 時間以上の休息期間（12 時間）を確保していること、および夜間ワンマン運行一運行の乗務時間が 10 時間以内（ $10 + 30 + 90 + 120 + 70 + 30 + 10 = 360$ （分） = 6 時間）であることから、一運行の実車距離は 500km を超えてはならないところ、往路における実車距離の設定は 410km です。このため配置基準に違反していないことになります。

以上